

渡良瀬遊水地湿地保全・再生モニタリング委員会ニュースレター

第6回渡良瀬遊水地湿地保全・再生モニタリング委員会を開催しました

平成25年3月21日（木）14：00～16：00に、栃木県栃木市の藤岡遊水池会館において「第6回渡良瀬遊水地湿地・保全再生モニタリング委員会」を開催しました。

◆モニタリング委員会の概要

今回は委員7人全員にご出席いただきました。

【委員名簿】（五十音順・敬称略）

青木 章彦	作新学院大学女子短期大学部 教授
一色 安義	渡良瀬遊水地野鳥観察会 会長
大川 秀雄	とちぎ昆虫愛好会 幹事
大和田 真澄	栃木県植物研究会 会員
清水 義彦	群馬大学大学院 教授
高松 健比古	渡良瀬遊水池を守る利根川流域住民協議会 代表世話人
守田 優	芝浦工業大学 教授

はじめに、事務局より第5回委員会での指摘事項とそれらへの対応を報告し、委員の確認を頂きました。次いで、本年度のモニタリングの結果を報告し、調査結果の評価、考察時の留意点、今後のモニタリングのあり方などについてご意見やご助言を頂きました。

また、事務局より今後の掘削に関する検討の進め方を説明し、植物重要種に配慮した掘削計画の進め方について意見がだされました。

○主な意見

- ・掘削地ではセイタカアワダチソウとヤナギの蔓延を抑制することが課題であるが、調査結果から水位の調節によりセイタカアワダチソウが抑制できる可能性がある。
- ・ヤナギについては、種子の散布時期と裸地が創出される時期が一致するとヤナギが蔓延すると考えられる。
- ・第2調節池でのチュウヒ調査の結果、第2調節池の利用頻度は少なく、湿地再生工事は渡良瀬遊水地のチュウヒの生息に大きく影響することはないと考えられる。
- ・ワタラセハンミョウモドキについて、重点的に調査が必要。
- ・深層地下水の低下による土壌水分への影響を検証するべきである。

モニタリング結果や今後の掘削に関して、さまざまなご意見・助言をいただきました。

今後のモニタリングや掘削に関する検討に対して、頂いたご意見やご助言を反映していきます。

【委員会の様子】

